

第146回幹事会議事要旨

日時 平成24年2月20日（月）13:30～15:00

場所 日本学術会議大会議室

出席者 （会長） 大西 隆

（副会長） 武市 正人、小林 良彰、春日 文子

（第一部） 大沢 真理、後藤 弘子、丸井 浩

（第二部） 山本 正幸、須田 年生、長野 哲雄

（第三部） 家 泰弘、荒川 泰彦、巽 和行、土井 美和子

（事務局長） 齋藤 敦

（事務局次長） 飯島 信也

（課長等） 清水 誠、上平 春樹、中澤 貴生、石原 祐志、渡部 良一

審議事項等

1 前回議事要旨の確認が行われた。

2 以下の公開審議が行われた。

(1) 東日本大震災復興支援委員会における分科会委員（災害に強いまちづくり分科会、放射能汚染対策分科会）が決定された。

(2) 東日本大震災復興支援委員会産業振興・就業支援分科会の被害状況調査の実施が承認された。

(3) 科学者委員会における分科会委員（学術誌問題検討分科会、知的財産検討分科会）が決定された。

(4) 国際委員会運営要綱の一部改正及び分科会委員（持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012分科会）が決定された。

○新規設置

・持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2012分科会

(5) 分野別委員会運営要綱の一部改正（新規設置5小委員会、構成員数の変更1分科会・3小委員会、親委員会の追加1分科会、調査審議事項の変更1分科会、廃止1分科会）及び委員会等委員（委員会3件、分科会18件、小委員会22件）が決定された。

○新規設置

・地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会地質地盤情報小委員会

・情報学委員会国際サイエンスデータ分科会CODATA小委員会

・情報学委員会国際サイエンスデータ分科会WDS小委員会

・総合工学委員会・電気電子工学委員会合同IFAC分科会IFAC2020世界大会準備小委員会

・総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会計算科学シミュレーションの情報発信検討小委員会

○構成員数の変更

・心理学・教育学委員会心の先端研究と心理学専門教育分科会

・地球惑星科学委員会IUGG分科会IAHS小委員会

- ・電気電子工学委員会 URSI 分科会 非電離媒質伝搬・リモートセンシング小委員会
 - ・電気電子工学委員会 URSI 分科会 プラズマ波動小委員会
 - 親委員会の追加
 - ・基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同総合微生物科学分科会
 - 調査審議事項の変更
 - ・総合工学委員会 原子力事故対応分科会 原発事故による環境汚染調査に関する検討小委員会
 - 廃止
 - ・臨床医学委員会 IAMP 分科会
- (6) 大学教育の分野別質保証推進委員会運営要綱の一部改正及び分科会委員（家政学分野の参照基準検討分科会、生物学分野の参照基準検討分科会）が決定された。
- 新規設置
 - ・家政学分野の参照基準検討分科会
 - ・生物学分野の参照基準検討分科会
- (7) 日本学術会議の運営に関する内規等の一部改正が決定された。
- (8) 日本学術会議主催学術フォーラムに関する幹事会決定案（「日本学術会議主催学術フォーラムの選定及び実施について」）が承認された。
- (9) 国際会議等関係について、ブルガリアアカデミー訪問に係る派遣、アジア学術会議に関するベトナム学術機関等との会合及び第 12 回アジア学術会議に関するインドネシア科学院との事前打ち合わせに係る派遣が承認された。
- (10) 7 件のシンポジウムの開催、3 件の国内会議の後援が承認された。

3 以下の非公開審議が行われた。

- (1) 科学者委員会における分科会委員（特任連携会員）が決定された。
- (2) 分野別委員会における分科会委員（特任連携会員）及び小委員会委員（2 2 件）が決定された。

特段の事情を考慮し、1 分科会につき複数名の特任連携会員が決定されたのは以下の分科会となる（国際対応分科会を除く）。

- ・地域研究委員会 国際地域開発研究分科会
 （国際開発協力については、主に研究者として活躍しながら現場実務にも精通している人材、主に援助機関等の現場で活躍しながら学術研究の造詣も深い人材の両方が審議に必要であるため。）
 - ・農学委員会 土壌科学分科会
 （東日本大震災により発生した、津波による土壌汚染、放射性セシウムによる土壌汚染に、両面的に取り組むためには、三陸地域、福島でそれぞれ主導的役割を果たしている土壌科学者が不可欠であるため。）
- (3) 高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会における委員（特任連携会員）が決定された。
 - (4) 科学・技術を担う将来世代の育成方策検討委員会における委員（特任連携会

- 員) が決定された。
- (5) 研究にかかわる「評価システム」の在り方検討委員会における委員（特任連携会員）が決定された。